

実証実験計画(素案)

国土交通省 関東地方整備局

令和2年11月19日

1. 実証実験の意義・目的

- ・中間駅周辺における新たなワークスタイルの具体化に関する検証（課題及び改善方策の把握）
- ・地域主体の持続的な取組に向けた課題や方向性の把握
- ・藤野エリアでの実証実験結果を踏まえた他の中間駅周辺地域への展開を見据えた成果・課題の抽出
- ・テレワーク及びワーケーションについての整理…no.2

2. 実験概要

- (1)実験期間…実証実験の実施期間（夏～秋を想定）
- (2)実験対象エリア…藤野エリアの概要、ワーク拠点・宿泊施設等の位置・情報
- (3)実験内容…no.5

3. 実証実験の準備・実施・管理に向けた全体スケジュール

- ・準備から実施、検証に関するスケジュール（令和3年度）

4. 実証実験の内容

- (1)募集…no.6
- (2)活用施設の準備…no.8
- (3)使用機材等の準備…no.12
- (4)実施体制の構築…no.13
- (5)移動手段の検討…no.14
- (6)プログラムの検討、運営方法…no.15
- (7)マッチング人材の確保…no.19
- (8)目標、評価方法…no.20

①テレワークとは

- ・ICT（情報通信技術）を活用し、時間や場所を有効に活用できる柔軟な働き方（出典：総務省）
- ・情報通信技術を活用した、場所や時間にとらわれない柔軟な働き方のこと（出典：一般社団法人日本テレワーク協会）

②テレワークの種類

区分	概要
在宅勤務	所属するオフィスに出勤しないで自宅を就業場所とする勤務形態
モバイルワーク	移動中（交通機関の車内など）や顧客先、カフェなどを就業場所とする働き方
サテライトオフィス勤務（専用型）	所属するオフィス以外の他のオフィスや遠隔勤務用の施設を就業場所とする働き方 （自社・自社グループ専用として利用され、従業員が営業活動で移動中、あるいは出張中などに立ち寄って就業できるオフィススペース）
サテライトオフィス勤務（共用型）	所属するオフィス以外の他のオフィスや遠隔勤務用の施設を就業場所とする働き方 （複数の企業がシェアして利用するオフィススペース）

※出典：多様な働き方に関する実態調査（テレワーク）／平成31年3月／東京都産業労働局

①ワーケーションとは

- ・ワーク（仕事）とバケーション（休暇）のことを言い、長期滞在先でパソコンなどを使って仕事をするを指す（出典：2018国土交通白書）
- ・普通の「Work」に自然のなかでのアクティビティ体験といった「Vacation」をプラスする、遊ぶように働く新たなワークスタイルが「Workation」（出典：一般社団法人Workation Network）

②ワーケーションの区分（仕事の形態）

【1 休暇活用型】

- ・休暇中にある一定の時間のみ働くタイプ。企業に属する社員が、長期の休み中に、旅行先から会議へ出席するといったケースが想定される。

【2 日常埋込型】

- ・仕事と休暇を重ねて織り込んだワーケーションスタイル。プランナーのような企画職、デザイナーやIT関係の仕事など、仕事とプライベートとの境界が明確でない職種に多く見られる。

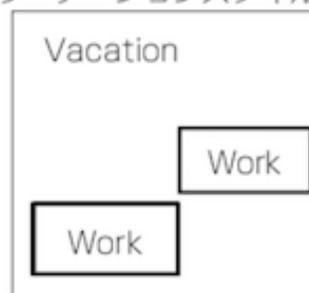
【3 プリージャー】

- ・出張の前後にレジャーを付け足すタイプ。金曜に出張で土日は家族と出張先で過ごす等のケースが想定される。

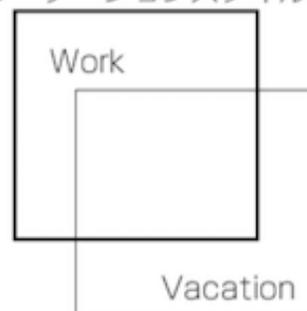
【4 オフサイトミーティング】

- ・会社の会議室とは異なる環境に身を置いて会議を行うタイプ。地方の自然豊かな場所で会議を行うことで、創造的な成果（新規事業開発等）を生み出すケース等が想定される。

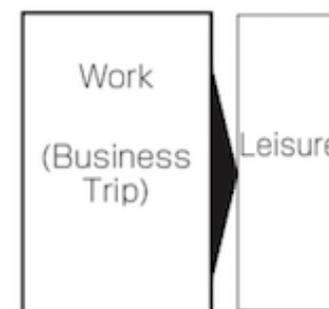
I. 休暇活用型 (休暇の中に仕事を織り込んだ ワーケーションスタイル)



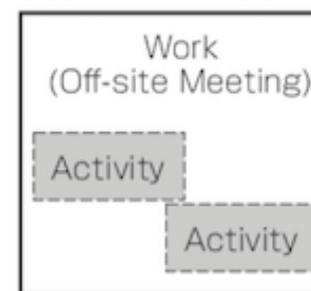
II. 日常埋込型 (仕事と休暇を重ねて織り込んだ ワーケーションスタイル)



III. プリージャー (出張前後にレジャーを付け足す)



IV. オフサイトミーティング (業務としてのオフサイトでの 会議やグループでの研修)



③ワーケーションの区分（企業、個人それぞれの目的別）

【①個人／仕事＋楽しさ】

・対象は比較的自由に動けるワーカーであり、「旅をしながら働く」等、「フリーランス」や「ノマドワーカー」のようなタイプ。

【②個人／仕事の集中】

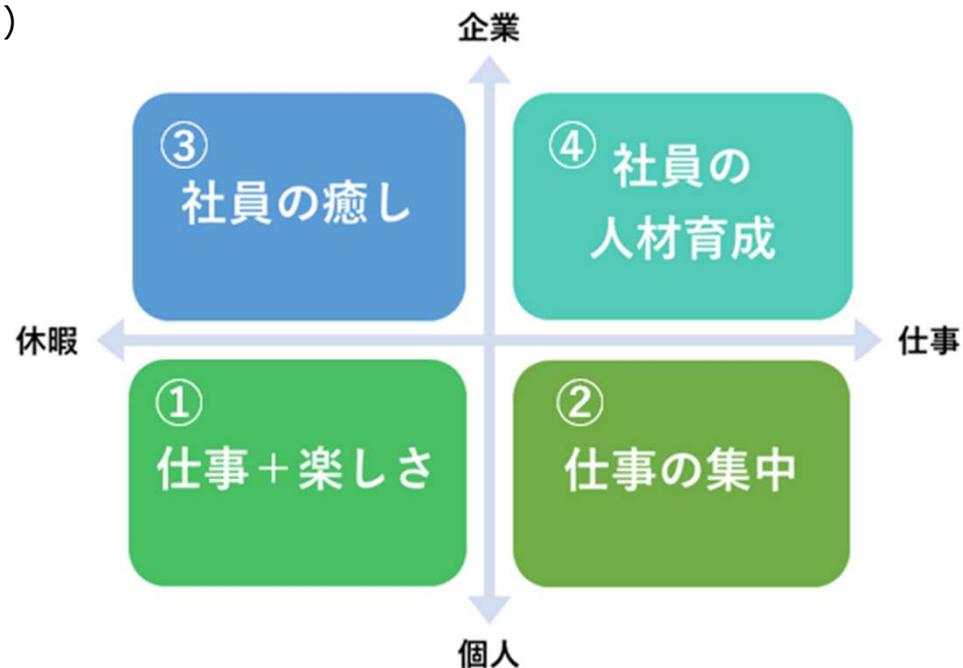
・仕事とプライベートを明確に分けず、日常的に仕事のことを考えるタイプ。

【③企業／社員の癒し】

・ワーケーションを企業の視点から「福利厚生」のような形で位置づけているタイプ。社員のリラックスやストレス改善等が目的。

【④企業／社員の人材育成】

・ワーケーションを仕事の延長と捉え、能力開発や仕事環境の向上につなげることが目的。オフィスから離れ、その地域の課題に触れることで学びを深める研修等が想定される。



※出典：竹内義春（妙高ワーケーションセンター ワーケーションコーディネーター）作成
（NPO法人しごとのみらいを運営しながら、東京のIT企業でも働く複業家）

■2(3)実験内容

- ・実証実験で提供するコンテンツの概要(利用イメージ) についてとりまとめる。
- ・大きく3つの利用を想定している。

区 分	内 容
テレワーク	<p>【対象：個人および企業】</p> <ul style="list-style-type: none">・エリア内において、個人あるいは企業単位でリモートワーク（通常業務）が可能なテレワーク拠点を提供する。・利用者のニーズに応じて、周辺の飲食店、宿泊施設、観光コンテンツ等の情報を提供する。 <p>※ニーズ調査（ワーカー）において、新たな拠点のテレワーク意向は5割を超えている</p>
ワーケーション	<p>【対象：企業】</p> <ul style="list-style-type: none">・宿泊型のワーケーションプログラムを提供する。・参加企業のニーズを踏まえてプログラムを構築、提供する。 （利用例①）仕事＋体験プログラム（農体験・アート体験・自然遊び等） （利用例②）企業研修（チームビルディング、新規事業開発等）＋観光 <p>※ニーズ調査（ワーカー）において、新たな拠点の企業研修およびワーケーション意向はいずれも5割を超えている</p>
マッチングイベント	<p>【対象：個人および企業】</p> <ul style="list-style-type: none">・都心ワーカー・企業と地元事業者やアーティスト等との交流やマッチングの機会を提供する。これまで出会わなかった人材同士が一堂に会し、新たなネットワーク構築や事業創出のきっかけをつくる。

※ニーズ調査（企業）において、新たな拠点における、テレワーク、企業研修、ワーケーションの利用意向の合計は、全体の約25%を占める

■4(1)募集・受付①

- ・企業：メール等による情報提供や訪問営業が想定される（※意向ありの企業に対して）。
- ・企業・ワーカー双方に対しては、有力なターゲット層を抽出した上で、以下のような方法が想定される。
 - ①実証実験に関する専用ポータルサイトを構築（情報発信、ワーク拠点の予約システム等）
 - ②記者発表（関東地整、相模原市）
 - ③新聞広告の活用（全国紙、地方紙（東京新聞、神奈川新聞等））
 - ④雑誌の活用（ソトコト等）
 - ⑤SNS、プレス配信等の民間サービスの活用 等

【ターゲットとなり得る層】※今年度のニーズ調査結果より

＜企業＞

※今年度の企業調査（問19）において、新たな拠点に関する情報提供等を希望している企業（130社）

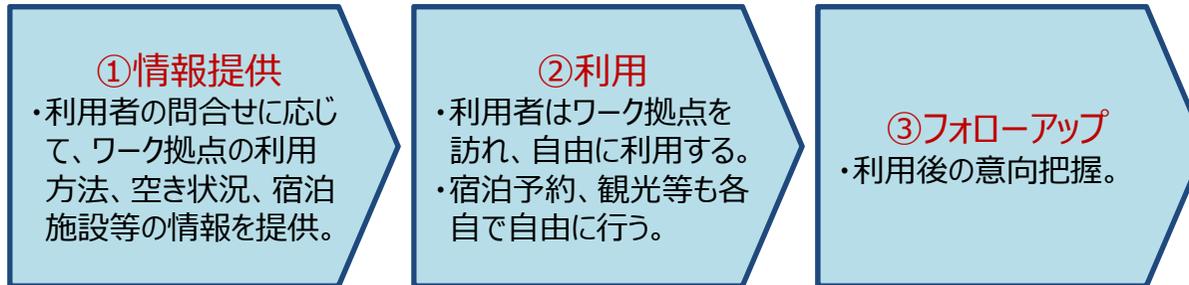
＜ワーカー＞

区分	生年代別	業種別	職種別
テレワーク	男女ともに 20～30代	情報通信／学術研究・専門・技術サービス／製造 等	<ul style="list-style-type: none"> ・会社役員・管理職等 ・専門・技術（設計・開発・製造・建築・情報） ・専門・技術（医師・弁護士・経営・金融） ・専門・技術（情報処理・ソフトウェア開発） ・販売（商品販売・営業等）
企業研修	男女ともに 20～30代	情報通信／学術研究・専門・技術サービス／製造／電気・ガス・水道・熱供給／金融・保険／医療・福祉 等	<ul style="list-style-type: none"> ・会社役員・管理職等 ・専門・技術（医師・弁護士・経営・金融） ・専門・技術（情報処理・ソフトウェア開発） ・販売（商品販売・営業等）
ワーケーション	男女ともに 20～30代	情報通信／学術研究・専門・技術サービス／製造／電気・ガス・水道・熱供給／生活関連サービス・娯楽／医療・福祉 等	<ul style="list-style-type: none"> ・会社役員・管理職等 ・専門・技術（医師・弁護士・経営・金融） ・専門・技術（情報処理・ソフトウェア開発） ・販売（商品販売・営業等）

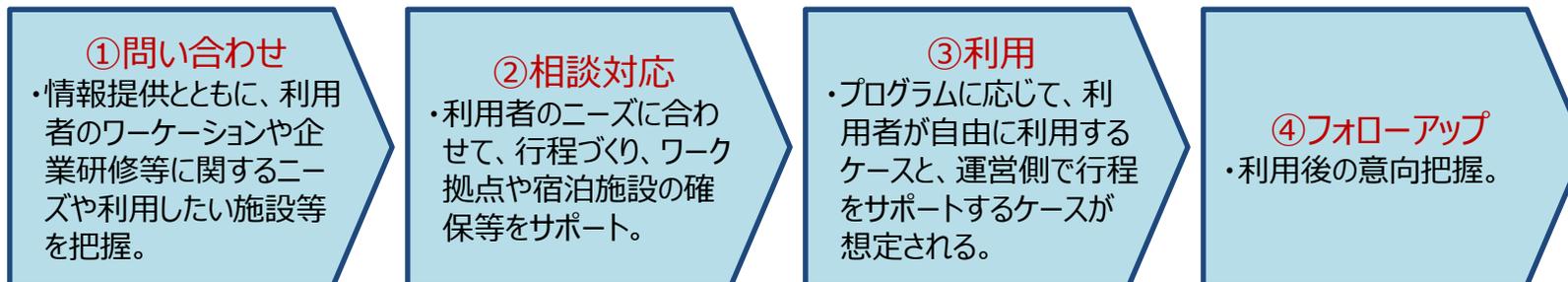
■4(1)募集・受付②

・募集・受付は、新たな拠点にワンストップ窓口を設置して対応することを想定。受付方法は以下のパターンを想定。

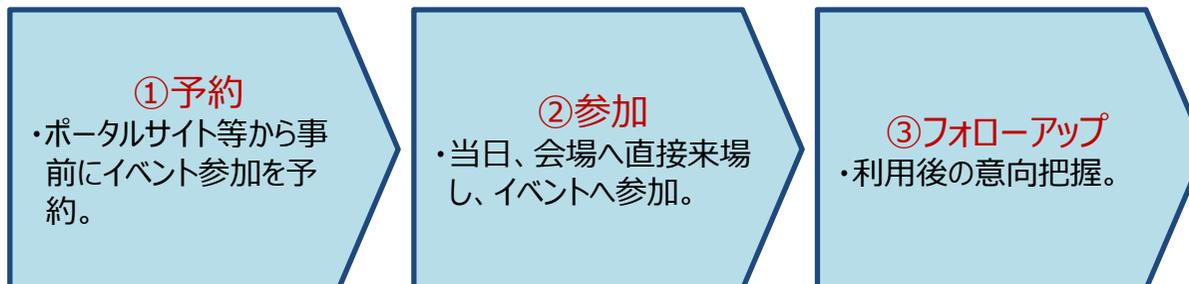
①ワーク拠点をフリーで利用する場合・・・申し込み不要で当日利用が可能（宿泊する場合は個別で予約）



②ワーケーション、企業研修として利用する場合・・・予約制で事前にプログラムや工程づくりをサポート



③マッチングイベントに参加する場合・・・予約制



■4(2)活用施設の準備①

- ・実証実験での利用が想定される主なワーク拠点、観光資源、宿泊施設についての概要、実証実験に向けて留意するポイント、必要となる準備等についてとりまとめる。

【ワーク拠点】

○藤野駅近くの公共施設（相模原市所有） ※**無料での利用を想定**

※利用方法、アクセス、定員数、Wi-Fi環境、開設時間、備品等の整理

※整備上の留意点

- ・通信環境及び情報セキュリティへの配慮
- ・静かなワーク環境づくり
- ・感染症対策、災害時の対応等の検討
- ・ワーク拠点は最寄駅から徒歩圏内だが、食事や観光等の利用には移動手段が必要
- ・保育・託児ニーズへの対応 等



<都心ワーカー及び企業調査結果より>

区分	ワーカー	企業
ワーク拠点において重視する条件（オフィス環境）	1位 利用価格が適正(55.3%) 2位 通信、クラウド環境が充実(42.4%) 3位 情報セキュリティ対策が充実(36.2%) 4位 最寄り駅からの交通手段の確保(32.5%) 5位 オフィスが静か(24.5%) ※n=3,000	1位 利用価格が適正(60.6%) 2位 通信、クラウド環境が充実(54.9%) 3位 情報セキュリティ対策が充実(40.0%) 4位 災害や事故発生(感染症等も含む)時の安全性が高い(32.6%) 5位 最寄り駅からの交通手段の確保(29.7%) ※n=175
ワーク拠点において重視する条件（付帯機能）	1位 周辺に安価な宿泊施設がある(49.3%) 2位 スキル講座や資格講座等のサービスがある(24.2%) 3位 ビジネスマッチング等の交流イベント(22.7%) 4位 自然体験やアート体験等の体験プログラム(18.2%) 5位 実証実験等が可能なフィールド(18.2%) ※n=2,841	1位 周辺に安価な宿泊施設がある(45.7%) 2位 ビジネスマッチング等の交流イベント(33.7%) 3位 地域住民等と交流できるイベント(29.7%) 4位 保育・託児サービスがある(28.6%) 5位 スキル講座や資格講座等のサービスがある(19.4%) ※n=175

■4(2)活用施設の準備②

- ・実証実験での利用が想定される主なワーク拠点、観光資源、宿泊施設についての概要、実証実験に向けて留意するポイント、必要となる準備等についてとりまとめる。

【宿泊施設】

- ・ニーズ調査結果を踏まえて、柚子の家、おおだ山荘、グランピング施設、旅館等を整理する。
- ・宿泊施設ごとに、アクセス、料金設定、定員数、Wi-Fi環境、アメニティ等についての情報を整理する。

<都心ワーカー及び企業調査結果より>

区分	ワーカー	企業
ワーク拠点において重視する条件 (付帯機能)	1位 周辺に安価な宿泊施設がある(49.3%) 2位 スキル講座や資格講座等のサービスがある(24.2%) 3位 ビジネスマッチング等の交流イベント(22.7%) 4位 自然体験やアート体験等の体験プログラム(18.2%) 5位 実証実験等が可能なフィールド(18.2%) ※n=2,841	1位 周辺に安価な宿泊施設がある(45.7%) 2位 ビジネスマッチング等の交流イベント(33.7%) 3位 地域住民等と交流できるイベント(29.7%) 4位 保育・託児サービスがある(28.6%) 5位 スキル講座や資格講座等のサービスがある(19.4%) ※n=175
興味がある施設 利用の種類	1位 駅近くのビジネスマッチング機能を有する施設(41.1%) 2位 ビジネスホテル、旅館(34.3%) 3位 古民家を改修した宿泊施設(34.2%) 4位 古民家を改修した施設(27.7%) 5位 宿泊や体験プログラムも可能な複合型の施設(26.9%) ※女性20～30代はグランピング施設の割合も高い ※n=3,000	1位 駅近くのビジネスマッチング機能を有する施設(25.8%) 2位 ビジネスホテル、旅館(22.3%) 3位 古民家を改修した宿泊施設(19.5%) 4位 体験プログラムも可能な複合型施設(19.3%) 5位 宿泊や体験プログラムも可能な複合型の施設(18.6%) ※n=972

■4(2)活用施設の準備③

- ・実証実験での利用が想定される主なワーク拠点、観光資源、宿泊施設についての概要、実証実験に向けて留意するポイント、必要となる準備等についてとりまとめる。

○柚子の家



○おおだ山荘



○グランピング施設



■4(2)活用施設の準備④

- ・実証実験での利用が想定される主なワーク拠点、観光資源、宿泊施設についての概要、実証実験に向けて留意するポイント、必要となる準備等についてとりまとめる。

【観光資源】

- 藤野や相模湖エリアにおける、体験プログラムを中心とした観光資源を整理
 - ・アート体験（藤野芸術の家、ふじのアートヴィレッジ等）
 - ・里山体験（藤野里山体験ツアー運営協議会等）
 - ・絹織りワークショップ（ブライアン・ホワイトヘッド氏ほか）
 - ・カヌー体験（相模湖カヌースクール等）等

<都心ワーカー及び企業調査結果より>

区分	ワーカー	企業
ワーク拠点において重視する条件（付帯機能）	1位 周辺に安価な宿泊施設がある(49.3%) 2位 スキル講座や資格講座等のサービスがある(24.2%) 3位 ビジネスマッチング等の交流イベント(22.7%) 4位 自然体験やアート体験等の体験プログラム(18.2%) 5位 実証実験等が可能なフィールド(18.2%) ※n=2,841	1位 周辺に安価な宿泊施設がある(45.7%) 2位 ビジネスマッチング等の交流イベント(33.7%) 3位 地域住民等と交流できるイベント(29.7%) 4位 保育・託児サービスがある(28.6%) 5位 スキル講座や資格講座等のサービスがある(19.4%) ※n=175
興味がある施設利用の種類	1位 駅近くのビジネスマッチング機能を有する施設(41.1%) 2位 ビジネスホテル、旅館(34.3%) 3位 古民家を改修した宿泊施設(34.2%) 4位 古民家を改修した施設(27.7%) 5位 宿泊や体験プログラムも可能な複合型の施設(26.9%) ※女性20～30代はグランピング施設の割合も高い ※n=3,000	1位 駅近くのビジネスマッチング機能を有する施設(25.8%) 2位 ビジネスホテル、旅館(22.3%) 3位 古民家を改修した宿泊施設(19.5%) 4位 体験プログラムも可能な複合型施設(19.3%) 5位 宿泊や体験プログラムも可能な複合型の施設(18.6%) ※n=972

■4(3)使用機材等の準備

- ワーク拠点で必要となる資材、設備関係の整理（Wi-Fi、机・イス、ホワイトボード、間仕切り、プロジェクター、スクリーン、音響施設等）
- オンラインでのミーティングやイベント開催も想定したシステム、設備等にも留意
- 資材、設備関係の準備、管理方法についての整理（役割分担も含めて）

■4(4)実施体制の構築

- ・実証実験に関わる関係主体の役割分担、ワーク拠点の運営方法等を整理する。
- ・実証実験に関わる関係主体および役割は以下を想定。

主体	役割
相模原市、緑区役所（政策課、緑区役所区政策課、広域行政課、観光シテプロモーション課、産業・雇用政策課、産業支援課）	<ul style="list-style-type: none"> ・実証実験に向けて必要となる情報提供（ワーク拠点として活用可能な施設、宿泊施設、観光資源等） ・実証実験に関する情報発信（記者発表等） ・藤野エリアにおける関係者の調整 ・実証実験への参加を希望する企業の掘り起こし（相模原市内）
コーディネーター（〇〇）	<ul style="list-style-type: none"> ・ワーケーション、企業研修等のニーズに合わせたプログラム構築および当日の運営をサポート。 ・マッチングイベントに関する企画・運営サポート、地元参加者や登壇者の調整。
拠点運営者（〇〇）	<ul style="list-style-type: none"> ・ワーク拠点の管理・運営を担う。 ・利用者への情報提供（観光資源、飲食店、宿泊施設等）、問合せ対応、ワーク拠点の予約管理、備品の貸し出し等を想定。
宿泊施設、キャンプ場等の事業者	<ul style="list-style-type: none"> ・ワーケーション利用等における宿泊施設の運営。
住民、アーティスト、地元事業者、NPO等	<ul style="list-style-type: none"> ・体験プログラムの受け入れ。 ・マッチングイベントへの参加。
有識者	<ul style="list-style-type: none"> ・SMRの影響を見据えた将来シナリオの検討や実証実験計画策定に関する助言。
関東地方整備局	<ul style="list-style-type: none"> ・事業全体の推進、管理。

- ・実証実験時の移動手段（ワーク拠点と宿泊施設間の移動、観光時の移動等）についての実証も想定。
- ・利用者自ら公共交通やレンタカー・自家用車を利用することも想定されるが、社会実験後の継続性等も踏まえ、インセンティブを高める方策を合わせて検討する。

<検討例>

- ・駅前駐車スペースの活用（無料駐車場としての活用等）
- ・地元の交通事業者（タクシー）との連携
- ・レンタカー、カーシェアリング事業者との連携
- ・宿泊施設事業者の協力（送迎等）
- ・地域通貨を活用した送迎等の対応 等

■4(6)プログラムの検討、運営方法①

【プログラムの考え方】

・利用者（ワーカー、企業）、受入地域の双方にとってメリットがあるもので、時間と場所に縛られない新しいワークスタイルの創出や都市と地方の対流促進につながることに留意する。

ワーカー	<ul style="list-style-type: none"> ・普段とは異なる環境に身を置くことで生産性向上や新たなアイデア・着想の獲得へ ・自然豊かな地域での体験プログラムや食事等を通じた心身のリフレッシュ
企業	<ul style="list-style-type: none"> ・新たなワークスタイルによる優秀な人材の確保 ・従業員のストレスマネジメント、ライフワークバランスの向上
受入地域	<ul style="list-style-type: none"> ・関係人口の拡大による地域資源の活性化、経済循環 ・新たな産業、雇用等の創出

<都心ワーカー及び企業調査結果より>

区分	ワーカー	企業
ワーク拠点において重視する条件（付帯機能）	1位 周辺に安価な宿泊施設がある(49.3%) 2位 スキル講座や資格講座等のサービスがある(24.2%) 3位 ビジネスマッチング等の交流イベント(22.7%) 4位 自然体験やアート体験等の体験プログラム(18.2%) 5位 実証実験等が可能なフィールド(18.2%) ※n=2,841	1位 周辺に安価な宿泊施設がある(45.7%) 2位 ビジネスマッチング等の交流イベント(33.7%) 3位 地域住民等と交流できるイベント(29.7%) 4位 保育・託児サービスがある(28.6%) 5位 スキル講座や資格講座等のサービスがある(19.4%) ※n=175
興味がある施設利用の種類	1位 駅近くのビジネスマッチング機能を有する施設(41.1%) 2位 ビジネスホテル、旅館(34.3%) 3位 古民家を改修した宿泊施設(34.2%) 4位 古民家を改修した施設(27.7%) 5位 宿泊や体験プログラムも可能な複合型の施設(26.9%) ※女性20～30代はグランピング施設の割合も高 ※n=3,000	1位 駅近くのビジネスマッチング機能を有する施設(25.8%) 2位 ビジネスホテル、旅館(22.3%) 3位 古民家を改修した宿泊施設(19.5%) 4位 体験プログラムも可能な複合型施設(19.3%) 5位 宿泊や体験プログラムも可能な複合型の施設(18.6%) ※n=972

【プログラムイメージ】

○ワーケーション①（仕事＋体験プログラム）

- ・企業単位で、普段とは異なる環境に身を置き、創造的な仕事に集中して取り組んだり、チームで将来の事業や組織等について話し合う。また、農体験等の体験プログラムや地域との交流も行う。

1日目	内容
9:30	オリエンテーション&施設見学
10:00	ワークタイム
12:00	ランチ
13:00	周辺の散策、体験プログラム（アート体験、カヌー体験等）
15:00	ワークタイム
18:00	夕食（地域住民、アーティスト等と交流）
2日目	内容
7:30	農業体験（収穫）
9:00	朝食（収穫した野菜も一緒に）
10:00	ワークタイム
12:00	ランチ
13:00	ワークタイム
15:00	里山体験
18:00	夕食
19:00	ナイトハイク、星空観察
3日目	内容
9:00	朝食
10:00	ワークタイム
12:00	ランチ
13:00	ワークタイム、ふりかえり
15:00	解散

○ワーケーション②（地域と関わる企業研修）

- ・企業単位で、地域の課題解決や魅力創出につながるプロジェクトを提案するような企業研修を想定。
- ・企業研修を通して、ワーカーと地域の双方にメリットが生まれるような内容とする。

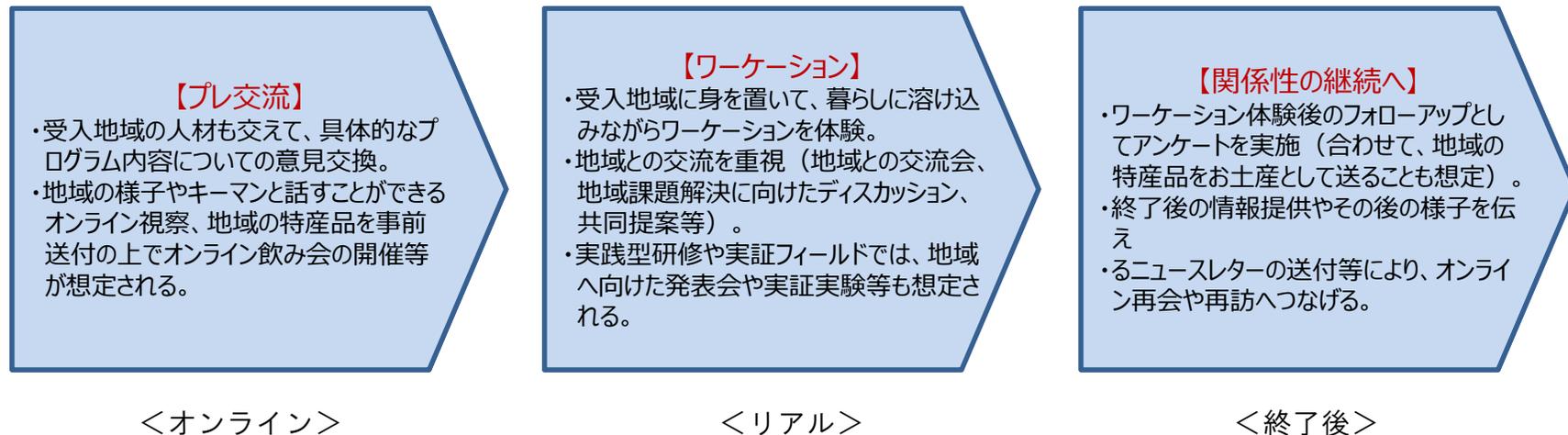
1日目	内容
9:30	オリエンテーション&施設見学
10:00	藤野エリアに関する講座、意見交換
12:00	地域の人とランチ
13:00	ワークタイム（散策、地域住民、事業者等への取材）
17:00	ワークタイム（成果のふりかえり）
18:00	夕食（地域住民、アーティスト等と交流）
2日目	内容
7:30	農業体験（収穫）
9:00	朝食（収穫した野菜も一緒に）
10:00	ワークタイム（地域の魅力や取り組む課題の抽出）
12:00	ランチ
13:00	ワークタイム（プロジェクト検討）
18:00	夕食
19:00	ナイトハイク、星空観察
3日目	内容
9:00	朝食
10:00	ワークタイム（発表準備）
12:00	ランチ
13:00	ワークタイム、ふりかえり
15:00	地域へ向けたプロジェクト発表会、ふりかえり
16:00	解散

【プログラムイメージ】

○関係性の継続を重視

- ・都市と地方の対流促進の観点から、ワーケーションだけで関係性が途切れることなく、その後も企業・ワーカーと地域との関係性が継続・発展していく仕掛けが重要となる。

【継続型の例】



■4(6)プログラムの検討、運営方法④

【プログラムイメージ】

○マッチングイベント（都心企業×地域）

- ・都心企業（ワーカー）と地域事業者やアーティスト等との交流機会を創出。
- ・新しいネットワークや事業創出等のきっかけをつくる。
- ・企業ニーズと地域ニーズの双方に合致したプログラムとすることが重要。
- ・継続性や発展性の観点から、単発ではなく、連続性を持ったプログラム構築も考えられる。

○講演会（例：ミニSMR講演会等）

ソトコト編集長 指出一正氏（都市と地方の対流、関係人口創出等）

東京工業大学 真田純子氏（SMR構想検討会委員で中山間地域に精通）

元多摩川精機 社長 萩本範文氏（SMR構想検討会のゲストスピーカー） 等

【プログラム例①：マッチングイベント】

時間	内容
15:00	開会（目的、スケジュール説明、アイスブレイク）
15:30	ゲストスピーチ（話題提供者、プロジェクト提案者等）
16:30	ブレスト（スピーカーの話について、グループを作って自由に意見交換、今後の方向性や新しいアイデア、アクション等を出し合う）
18:00	ブレスト結果の共有とふりかえり
18:30	乾杯！交流（BBQ）
20:30	終了

【プログラム例②：講演会】

時間	内容
15:00	開会（目的、スケジュール説明、アイスブレイク）
15:30	講演（SMR、新たなワークスタイル、多拠点居住等）
16:30	質疑応答、意見交換
17:00	乾杯！交流
19:00	終了

【都心企業・ワーカー×地域のマッチング】

- ・都心企業・ワーカーと地域とのマッチングを進めていく上で、地域の受入体制を構築することが重要となる。
 - ・特に、以下の視点で検討を行うことが必要である。
- 中間支援的な役割を果たす人材、団体の確保
 - ・実証実験後の継続的な取組や地域の自走化へとつなげていくためには、地域の主体的な関りが重要となる。
 - ・実証実験を通して、エリア内における関係主体間の関係づくりを進めながら、エリアとして将来的に目指すビジョンや取組内容、役割分担等について合意形成を図り、地域の主体性を醸成していくことが求められる。
 - ・そのため、実証実験においては、地域主体の取組としての自走化の可能性を踏まえ、地域内の関係者間の調整や都市部とのマッチングを担う人材（団体）の確保等について検討を行う必要がある。
 - 取組の核となる地域の人材、団体の掘り起こし
 - ・都心との効果的なマッチングにつなげるために効果的な地域の受入体制を構築するためには、上記に加えて、エリア内におけるワーク拠点や宿泊施設、観光資源等の掘り起こしを行うとともに、取組の核となり得る人材（団体）の掘り起こしも行うことが重要となる。
 - ・当該エリアにおいては、農体験や里山体験、アート活動、自然環境保全、伝統・文化の継承等に取り組む人材や団体、都心からの移住者や多拠点居住の実践者等が想定される。

4(8)目標、評価方法

- ・実証実験における目標設定、評価方法について整理する。
- ・当該エリアにおける取組継続を見据えた課題や問題点の把握、及びそれらを克服する方策等の検討に資するものとする。

【目標及び評価方法のイメージ】

ワーカー（アンケート+ヒアリング）

【目標設定の例】

- 満足度：○割以上
- リピート意向：○割以上 等

【利用者アンケート項目例】

- 基礎情報
 - ・居住地、勤務地、性別、年代、業種、職種、利用目的、当該地域までの交通手段及び時間、地域内の交通手段、利用期間 等
- 利用状況
 - ・ワーク期間、宿泊有無、体験コンテンツ
 - ・不足点、感じたメリット・デメリット 等
- 5段階評価とその理由
 - ・生産性向上への寄与度
 - ・心身リフレッシュへの寄与度
 - ・ワーク拠点の満足度、リピート意向
 - ・宿泊施設の満足度、リピート意向
 - ・体験コンテンツの満足度、リピート意向
 - ・総合的な満足度
 - ・同僚・知人へのお勧め度
- 金額設定
 - ・金額設定の妥当性 等

企業（アンケート+ヒアリング）

【目標設定の例】

- 満足度：○割以上
- リピート意向：○割以上 等

【企業担当者向けアンケート項目例】

- 基礎情報
 - ・所在地、業種、規模、利用目的、人数、当該地域までの交通手段、地域内の移動手段、利用期間 等
- 5段階評価とその理由
 - ・従業員の生産性向上への寄与度
 - ・従業員の組織マネジメントへの寄与度
 - ・総合的な満足度
 - ・リピート意向
- 金額設定
 - ・金額設定の妥当性 等

※逗子市「ON/OFFiceZUSHI」の利用者アンケートも参考に作成

受入地域（ヒアリング）

【目標設定の例】

- 満足度：○割以上が満足
- 継続意向：○者以上が継続意向
- 利用者数：○人（売上：○円）

【受入地域へのヒアリング項目例】

対象：ワーク拠点運営者、宿泊事業者、体験コンテンツ提供者

- 基礎情報
 - ・受入人数、受入期間 等
- 5段階評価とその理由
 - ・自身の事業への効果
 - ・地域活性化への効果
- 良かった点、改善点
- 売上への寄与、継続性
 - ・金額設定の妥当性
 - ・実証実験後の継続意向 等